

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所愛あいプラス		
○保護者評価実施期間	R7年 3月 1日		R7年 3月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	R7年 3月 1日		R7年 3月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 5月 16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	早期からの受け入れ体制があること	保育士、看護師、介護福祉士等が直接支援を行い、保護者の方を支えています。	引き続き多職種で連携を取りながら情報共有を行いチームでの支援に取り組みます。 職員の専門性ををさらに高めるため、発達支援方法やアプローチを学べる外部研修への参加を促進し、内部研修では、ケーススタディを取り入れ、具体的な支援方法について職員間で意見交換を行い、実践力を高めます。
2	事業所内の情報共有、関係機関との連携体制があること	他事業所と連携をとることにより個々の発達状況を捉えたり、相談支援事業所を通じて、切れ目ない移行支援や地域支援が可能となり、包括的支援を図っています。	引き続き関係機関との定期的な連携会議を実施し、子供の支援状況や課題について情報を交換します。 移行先の保育園との連携を充実させます。
3	子どもの事を十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されている。	保護者面談を必ず実施、内容の説明や目標の意図などを説明させて頂いております。その時に保護者のニーズを把握して目標への追加またはプログラム内容への反映などに行っています。	ニーズに応えるためのプログラム数の増加や、支援計画以外の面談の機会の提供を周知していく必要がある。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流会が不足していること	インフルエンザが流行したり、コロナが流行したりと何かしらの感染症が流行ったりすると、交流会が中止になったりします。医療的ケアが必要なので感染症には十分に気を付けないと入院になることもあり、交流会は慎重に考えています。	保護者の方の要望などを伺いながら、必要とされる交流の方法を検討していきます。
2	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	発達段階が低いお子様に対しては、ルーティーン化をすることで出来ている事を増やしているが、そのことで固定化になっている可能性もあります。	固定化する内容や新しいことへのチャレンジを同時に出来る様に研修を行っていく必要がある。
3			